



2006年に移転新築した本院

地域貢献を理念に 全世代の健康を 家族で守る総合歯科医院

沖縄市の「たけしま歯科・小児歯科」は、地域貢献を理念に掲げる総合歯科医院。家族6人と57名のスタッフがチーム医療に取り組んでいる。37年の歩みと今後を伺った。

医療法人 堅勇会 たけしま歯科・小児歯科

理事長 竹島 勇 先生

院長 竹島 堅 先生



1988年にユニット 4台からスタート

「たけしま歯科・小児歯科」(以下、たけしま歯科)は、うるま市との市境も近い沖縄市の東部にある。一般歯科の本院を中核に、予防歯科が中心の「タケシマデンタルオフィス」、審美歯科とインプラントなどの自費診療を行う「T Dental Frontier」を持つ総合歯科医院だ。

竹島勇理事長と、奥様で事務長の悦子さんが力を合わせ、開業したのは1988年のこと。2004年に勇理事長と18歳、離れた弟さんの竹島堅院長が勤務を開始。2014年からは長男の尚孝先生、次男の朋宏先生が、2021年からは三男の浩平先生が診療に加わった。

現在は、堅先生がたけしま歯科の院長を務め、勇理事長と尚孝先生、浩平先生が常勤医として働く。

勇理事長が開業した頃は、虫歯の洪水時代。勇理事長と悦子さん、スタッフが2名、ユニット4台の40坪ほどのクリニックに、1日60～70人の患者がひっきりなしに訪れていた。小児歯科を看板に掲げていたこともあり、子どもの患者も多かった。「今と違い、予約時間はあってないようなもの。急患も

多かったですし、朝早くから夜9時過ぎまで働き続けました」と、勇理事長は当時を振り返る。

その無理がたたったのだろう。2003年に勇理事長は体調を崩し、診療ができない状態になってしまった。「突然の不調でした。患者さんを待たせるわけにもいかなないので、旧知の先生に代診をお願いしましたが、長期的にはできません。閉院が頭をよぎる一方で、開業時に決意した地域貢献をしたいという志は、道半ばです。熟考の末、他の歯科医院に勤務していた堅先生に助けてもらうことにしたのです」(勇理事長)

急きょ、たけしま歯科に勤務することになった堅院長は、こう話す。

「いずれ自分の歯科医院を開業したいと思っていましたが、兄の体調を考えると、1人での診療継続が難しいのは明らかでした。思いがけない方向転換でしたが、兄を助けようと決めたのです」(堅院長)

勇理事長は、堅院長が診療に加わったことで心労が和らぎ、体調が回復。それからは、勇理事長、堅院長、悦子さんの3人で歯科医院を盛り立てることになった。

スタッフも増え、手狭になってきた頃、現在地の物件が見つかり、2006年に本院を移転新築。2008年には医療法人堅勇会を設立した。そして、30周年を迎えた2018年、堅先生は副院長から院長に昇格。